

## 令和3年度横須賀市教育フォーラム 開催報告

### 1 開催趣旨

横須賀市の「目指す子ども像」・「目指す教育の姿」について、市民の皆様から意見をお聞きし、教育振興基本計画の策定及び教育環境の整備の検討に生かす。

### 2 日時・場所

令和3年5月23日（日） 9:30～12:15 総合福祉会館5階ホール

### 3 開催内容

#### 【第1部】ワールドカフェ方式による意見交換（9:30～11:00）

事務局による事前説明の後、ファシリテーター（関東学院大学法学部准教授 牧瀬稔氏）の進行により実施した。

- 参加者 中高生、未就学児・小中学校保護者、教員、公募市民 60名
- テーマ 第1ラウンド 「子ども像：どのような子どもを育てるか」
- 第2ラウンド 「教育の姿：どのような教育内容が必要か」
- 第3ラウンド 「教育環境：どのような教育環境が望ましいか」
- 第4ラウンド 各テーブルでの振り返り

#### 【第2部】ラウンドテーブル方式による意見交換（11:15～12:15）

市長からのメッセージをビデオで放映した後、牧瀬氏の進行により実施した。

- 参加者
  - ・鎌倉女子大学教育学部 准教授 伊藤大郎 氏
  - ・横須賀市PTA協議会 会長 櫻井 聡 氏
  - ・横須賀市療育相談センター 所長 広瀬宏之 氏
  - ・横須賀市保育会 会長 宮田丈乃 氏
  - ・三浦学苑高等学校 校長 吉田和市 氏
- テーマ 横須賀市の「目指す子ども像」・「目指す教育の姿」

### 4 参加者（参加者 66人・見学者 25人 計 91人）

ラウンドテーブル(6人)	
ワールドカフェ(60人)	
中学生(5人)	ジュニアリーダー
高校生(10人)	市立横須賀総合高校・三浦学苑高校
大学生(19人)	関東学院大学法学部牧瀬ゼミ ※テーブルホストを担当
未就学児保護者(9人)	
小中保護者(12人)	
教員(2人)	
公募市民(3人)	
見学者(25人)	教育委員、市議会議員、学校等関係者、教育委員会事務局

## 5 意見まとめ

### 【第1部】ワールドカフェ方式による意見交換

【子ども像】どのような子どもを育てるか	【教育の姿】どのような教育内容が必要か	【教育環境】どのような教育環境が望ましいか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性がある。</li> <li>・自分の考え、意見が言える。</li> <li>・自己肯定感を持つ。</li> <li>・思いやりがある。</li> <li>・相手の気持ちを分かる。</li> <li>・周りの人を大切にす。</li> <li>・あいさつができる。</li> <li>・明るい。</li> <li>・元気がある。健康である。</li> <li>・笑顔が多い。</li> <li>・英語が話せる。</li> <li>・海外と交流できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力を高める。</li> <li>・外国語教育を充実する。</li> <li>・国際交流を行う。</li> <li>・ICTを活用する。</li> <li>・自分で考えさせる。</li> <li>・自己肯定感を高める。</li> <li>・地域について知る。</li> <li>・地域と交流する。</li> <li>・心を育てる。</li> <li>・道徳教育。</li> <li>・生徒の多様性を認める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン学習ができる。</li> <li>・タブレットを配布する。</li> <li>・少人数のクラスにする。</li> <li>・地域と関わる。</li> <li>・多世代、他文化と交流できる。</li> <li>・自然と触れ合える。</li> <li>・思いっきり運動ができる。</li> <li>・自由に遊べる公園。</li> <li>・英会話が学べる。</li> <li>・英語コミュニケーション環境。</li> </ul>

※ 詳細は、参考資料1「教育フォーラム（ワールドカフェ）キーワード集」参照

### 【第2部】ラウンドテーブル方式による意見交換

上地市長 ビデオメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の考える「教育のあるべき姿」は、①柔軟な発想と豊かな感性、②助け合う心と思いやり、③感謝の気持ちを習得させることに加え、「生き抜く力」を身に着けさせることにある。</li> <li>・「生き抜く力」は、生涯にわたり「人間らしく生きる」ために必要なことであり、人生のターニングポイントを迎えたときに、主体性をもって正しい選択ができるかどうか問われている。</li> </ul>
伊藤准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害やヤングケアラー等の様々なタイプの子どもたちがいる中で、現実に合わせて柔軟な対応が求められる。子どもたちの良さを組み合わせて活気のある社会を目指し、学校で育てていくことが理想。</li> </ul>
櫻井会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と学校の接点が限られているが、高齢化している地域と次世代を担う子どもたちとの関わりを学校の教育として取り組むべき。</li> <li>・児童生徒数が減少していく中で、多様性(個性)を大事にして、お互いに助け合う学びが、子どもの教育の在り方である。</li> </ul>
広瀬所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利条約(生きる・育つ・守られる・参加する権利)の「参加する権利」の中にある子どもの意見を言う権利を大事にしたい。</li> <li>・子どもたちは、勉強以外にもいろいろな分野で頑張っている。障害のある方の社会参加にも適材適所があることを意識していきたい。多様性が大事。</li> </ul>
宮田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは笑顔と元気が一番の生きる力。</li> <li>・ルールに沿った生き方をし、自分育ち(見て・聴いて・理解して行動に移せる)をしていくことが大切。</li> <li>・自らが学び、考えたことを判断して行動できる子が、お互いを認め合い、高め合う関係を築いていける人間になると思う。</li> </ul>
吉田校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な情報が溢れている時代の中で、自分なりに本質を考えて、自分の考えをまとめることが大切。</li> <li>・暗記による頭の良さよりも、知識や媒体の使い方や処理能力、情報をどのように地域に発信し、地域とのコミュニティを形成していくかが問われている。</li> </ul>